

凡例

- 一、本資料集は、法学新報社発行の雑誌『法学新報』に載せられた中央大学関係記事を抜粋・編集したものである。とくに本集は、その「雑報」、「東京法学院記事」、「東京法学院大学記事」、「中央大学記事」の各欄から学事・行事関係記事を中心に収録した。
- 一、底本は、中央大学中央図書館所蔵の『法学新報』各号をもつてした。
- 一、記事の収録にあたっては、できるかぎり史料の原形をとどめるように留意したが、次の点については改めた。
- 一、原文に用いられている文字の大小については、原則的に統一し、同じ大きさとした。
- 一、記事の表題は、その内容にそくして適宜付し、表題の下に「」を付して巻・号数・発行年月日を記入した。なお、本誌は、明治三十五年一月発行の第百三十号(十二巻一号)以降は巻・号表示に切り替えられ、通番表示はあまり用いられなくなるが、便宜のため()内に通番も併記した。
- 一、漢字は常用漢字を使用した。常用漢字表にない漢字は、正字を用い、人名についてはできるかぎり原文通りとした。
- 一、仮名は現字体の文字を使用し、仮名づかい・送り仮名は原文通りとした。
- 一、合字当て字は原文通りとした。
- 一、記事中に疑義が生じた場合は、該当部分右肩に(ママ)を付し、明らかな誤りと思われるものについては該当部分右肩に()を付して訂正した。
- 一、欠損などの判読不能部分については、字数分の□で示し、わからないものは「」で示した。